



2021年5月12日

各位

会社名 日本農薬株式会社
 代表者名 代表取締役社長 友井 洋介
 (コード: 4997、東証第1部)
 問合せ先 管理本部総務・法務部長 永井 統尋
 (TEL. 03-6361-1400)

2021年3月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2021年2月10日に公表しました2021年3月期通期の連結業績予想と本日公表の実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期通期連結業績予想と実績値との差異 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	70,000	5,000	4,500	3,000	38円13銭
実績値 (B)	71,525	6,981	5,722	4,344	55円23銭
増減額 (B-A)	1,525	1,981	1,222	1,344	
増減率 (%)	2.2	39.6	27.2	44.8	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	35,674	4,005	4,004	1,477	18円75銭

(注) 当社は、2019年12月20日開催の第120回定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、決算期を9月30日から3月31日に変更いたしました。従いまして、2020年3月期は6カ月間です。

2. 差異の理由

国内農薬販売は、輸入農薬原体の入荷遅延等の影響により前回公表時の予想を下回りました。一方、海外農薬販売において、ドルやポンドなどの為替レートが想定より円安に進行したため、欧米地域での売上高を押し上げました。それに加え、インドで乾季作向け当用期販売が好調に推移したこと、また、米国で新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるピーナッツ需要増に伴う作付面積増加を受け殺菌剤フルトラニルの販売が好調となりました。これらの結果、売上高は前回発表予想を上回りました。

利益面においても、上記売上高の増加に加え本年3月末における為替レートの急激な円安進行などにより、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表予想を上回りました。

以上